



第31号にあたって

新年明けましておめでとうございます。今年こそは、平和な世界に少しでも近づき、大きな災害がないことを願っています。

新型コロナについては、世界的大流行であるパンデミック状態は収束に向かい、インフルエンザのような繰り返し発生するエンデミックに移行しつつあります。一方、インフルエンザは警報級の流行が続いています。新型コロナの5類移行後においても、基本的な感染対策（手洗いや手指消毒、適度な換気や場面に応じたマスクの着用）を心がけ、新年を楽しくお過ごし下さい。

今回は、病気の知識として「危ない頭痛」を取りあげました。頭痛はよくみられる症状ですが、なかには命にかかわるものがありますのでご注意ください。Q&Aには「発熱による受診時の新型コロナとインフルエンザ検査の時間調整」を掲載しました。

最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレス（QRコード）が掲載されていますのでご利用下さい。



インフルエンザ流行期に「発熱」で 受診される方へのお願い

★土曜日・日曜日・祝日、特に**連休**は受診患者さんで非常に混み合いますので、下記についてご理解、ご協力をお願いします。

発熱直後は、まず自宅で様子をみてください！

◇新型コロナは減ってきていますが、インフルエンザ患者が非常に増えてきています。**インフルエンザは発熱後12～24時間たないと検査で陽性にならないことと、長時間待ちでの体調悪化を防ぐためにも、発熱以外の容態が落ち着いていて水分がとれるようなら、自宅で慎重に様子をみて、日中かかりつけ医へ受診することをお勧めします。**



市販の風邪薬（解熱剤や咳止め）購入による備えを！

◇家族が発熱する場合に備えて、**市販の風邪薬（解熱剤や咳止め）を購入しておくことをお勧めします。**また、新型コロナやインフルエンザの検査キット（医療用）が手に入るようなら、発熱後に自宅で検査ができるのでお勧めします。



受診前の電話を！ 発熱後の直接受診は避けて下さい！

◇発熱で受診される場合は、**受診前に必ずお電話**をお願いします。病状に合わせて、コロナとインフルエンザの同時検査の**時間調整**を行います。

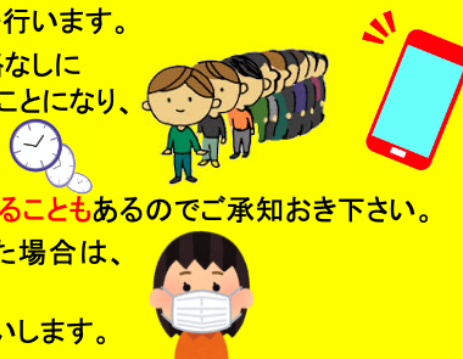
◇電話は混み合い、つながりにくいということで連絡なしに受診されますと、寒い中、長時間車中などで待つことになり、体調が悪くなるおそれがあります。

電話連絡後の受診にご協力をお願いします。

◇**混雑時は、受診から終了まで3～4時間以上かかることもある**のでご承知おき下さい。

◇重症で病院へ救急搬送する患者さんが発生した場合は、診療が一時的に中断することがあります。

◇受診時は、付添の方を含め**マスクの着用**をお願いします。



病気の知識

危ない頭痛

“かつて経験のない突然の激しい頭痛は危険！”

【頭痛の分類】

- ・頭痛は多くの人によくみられる症状の一つですが、原因はさまざまです。軽症のものから、命にかかわる病気が隠れている危険な頭痛までいろいろあり、頭痛について、正しい知識を持つことが重要です。
- ・よくみられる緊張型頭痛や片頭痛など、慢性頭痛といわれる一次性頭痛は、治療が必要な場合がありますが、命にかかわることはなく緊急性はありません。
- ・一方、脳や他の疾患が原因となって起こる頭痛は二次性頭痛といわれ、命に関わる場合もあるので注意が必要です。（下図）



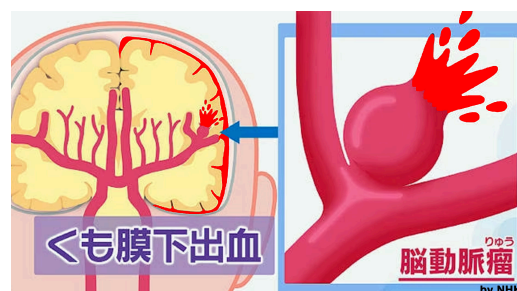
分類	特徴	原因
一次性頭痛	頭痛そのものが病気であり、繰り返し起こる慢性頭痛。「頭痛持ちの頭痛」	緊張型頭痛・片頭痛・群発頭痛など
二次性頭痛	脳や他の疾患が原因となって起こる頭痛。命に関わる頭痛もある。	クモ膜下出血・脳出血、脳腫瘍、硬膜外血腫、髄膜炎、緑内障、薬物乱用など

【危ない頭痛とは】

- ・かつて経験したことのない突然の激しい頭痛。「くも膜下出血」などでみられます。
- ・次第に強くなっていく頭痛。週単位や月単位での増強も安心はできませんので、受診して下さい。「慢性硬膜下血腫」や「脳腫瘍」などでみられます。
- ・発熱・吐き気・おう吐をともなう頭痛。「細菌性髄膜炎」などでみられます。
- ・意識障害（ぼんやりする程度も含む）、言語障害（話し方が不自然なもの）、運動マヒ（手足の動きが悪いこと）、知覚障害（顔面や手足のしびれ）をともなう頭痛。脳血管障害（脳梗塞など）でみられます。
- ・複視（物が二重になって見える）、視力障害、視野障害をともなう頭痛。脳血管障害などでみられます。

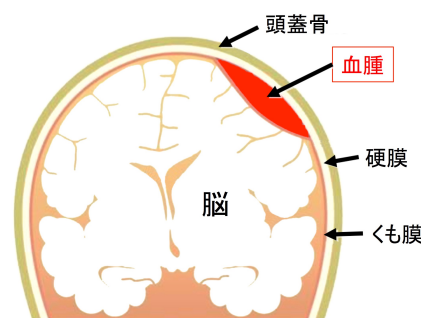
【くも膜下出血】

- ・脳を被っている“くも膜”の内側には脳脊髄液という液体があり、この部分に出血するのがくも膜下出血です。
- ・一番多い原因は、脳の動脈が“こぶ”のようにふくれてそれが破裂する、脳動脈瘤破裂です（右図）。
- ・頭全体、時に前頭部、後頭部などに頭痛が起こります。
- ・頭痛の特徴は、いままで経験したことのないほど強い頭痛が突然起こり、それが続くことです。
- ・同時に吐き気、おう吐、首の後ろがこる、などのいわゆる髄膜刺激症状が起きます。
- ・死亡率が高いため直ちに受診し、動脈瘤のクリッピング術またはコイル塞栓術が検討されます。病状があまりにも重症の場合は、手術ができないこともあります。



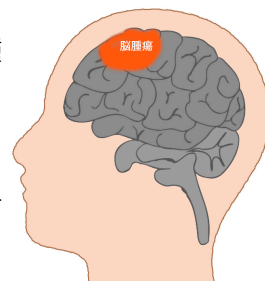
【慢性硬膜外血腫】

- ・頭部打撲などの後、1～2ヵ月経ってから、徐々に出現する頭痛（それほど強くないことが多い）や片マヒ（片側の手や足の動きが悪くなること）、認知症状（物忘れや行動異常）などがみられます。頭部外傷がない場合でも発生します。
- ・高齢者に多くみられますが、比較的若い成人の方でも起きます。
- ・頭をぶつけたことなどが原因で、脳を被っている“硬膜”と“くも膜”の間に少しずつ出血し、1～2ヵ月後に血腫（血液のかたまり）が脳を圧迫するほどになり頭痛が起こります（右図）。
- ・血腫を取り除く治療をすれば、症状はなくなります。



【脳腫瘍】

- ・脳に発生する腫瘍のことで、小児から高齢者までさまざまな年代にみられ、良性腫瘍と悪性腫瘍に分かれます（右図）。
- ・脳腫瘍は、大きくなると頭蓋骨内部の圧力が大きくなり、腫瘍の種類に関係なく、頭痛や吐くなどの症状がみられます。
- ・腫瘍が大きくなるにつれて、頭痛も次第に強くなり、腫瘍の部位によっては、手足のマヒや視野障害、言語障害、聴力障害などがみられます。



【髄膜炎】

- ・感染性髄膜炎は、細菌やウイルスなどの感染が原因で、脳を被っている髄膜や髄液に炎症が起きることで発症します。
- ・激しい頭痛、39度以上の高熱、おう吐、けいれん、意識障害などの症状がみられます。
- ・髄液検査をした上で、抗菌薬や抗ウイルス薬で治療しますが、早期診断、早期加療が重要です。

【急性緑内障発作】

- ・緑内障とは、主に眼圧が上昇することにより眼の奥にある視神経が障害され、視野（見える範囲）が狭くなる病気で、日本人の中途失明の原因第1位です。
- ・ほとんどの緑内障は、長い年月をかけてゆっくり進行します。
- ・しかし、急激に眼圧が上昇する「急性緑内障発作」が発症すると、激しい頭痛（眼の奥からくる頭痛）、眼の痛み、吐き気やおう吐、眼がかすむなどの症状がみられます。
- ・急性緑内障発作は、眼内の水の出口が閉塞することが原因と言われています（閉塞隅角緑内障）。
- ・急性緑内障発作と思われる症状がみられた場合には、短時間で重度な視力障害や失明に至ることがあるのですぐに受診しましょう。



通常時間に病院へ



- ・よくみられる緊張型頭痛や片頭痛など慢性頭痛は、治療が必要な場合がありますが、命にかかわることはなく緊急性はありません。

救急車を



- ・これまで経験のない突然の激しい頭痛、意識障害、言語障害、手足のマヒなど何らかの神経症状をともなう頭痛では、救急車を呼んでください。

Q & A（質問に答えて）

Q：発熱時に電話相談をしたところ、直ちに受診するのではなく、検査受付の時間調整がされました。発熱による受診時の新型コロナとインフルエンザ検査の時間調整について教えてください。

A：新型コロナとインフルエンザの流行期は、当センターでの診療能力を超える非常に多くの発熱患者さんが受診され、迅速検査や診察までの長い待ち時間が発生します。



- ・インフルエンザに感染し発熱直後に受診されても、発熱後12～24時間たないと検査で陽性にならないため、陰性であれば抗インフルエンザ薬の治療に結びつきません。
 - ・急患診療のため電話等での予約は行ってきませんでしたが、発熱患者さんの待ち時間をできるだけ短くすること、インフルエンザ検査の適切な時間（発熱後半日以後）での実施、当センターの診療能力にあった検査を行う目的で新型コロナとインフルエンザ迅速検査の時間調整をおこなっています。
 - ・具体的には、発熱患者さんからの電話で、発熱などの発症時刻や容態などを聞き取り、発熱以外の特別な症状がなく水分がとれる場合には、受診する時刻を30分ごとに指定します。その時間に受診されれば検査までの待ち時間は長くなりません。その後、診察になりますが発熱以外の患者さんも多いので、重症の方がいればお待ちいただくこともあります。
 - ・検査の時間調整後に、万一容態が悪くなるようでしたら再度電話をお願いします。意識障害などがみられるようでしたら救急車の依頼をお願いします。
 - ・市販の医療用検査キット（新型コロナ、インフルエンザ）で自己検査を行い、陽性が出た場合は、陽性とわかる検査キットをビニール袋に入れて持参していただければ、検査なしで医師の診察となりますので、電話相談の際にお申し出下さい。あらかじめ家庭に検査キットを常備しておくこともお勧めです。
 - ・発熱以外の容態が落ち着いていて水分がとれるようなら、自宅で慎重に様子を見て、日中かかりつけ医へ受診することをお勧めします。
- ★電話による発熱患者に対する、検査の時間調整の対応は8：30からです。ただし、検査キットの供給不足などによりお断りする場合がありますが、検査なしでの診察は可能です。

診療時間



★土曜日の在宅当番医

【産婦人科】

午後2時～午後6時
(当番医はホームページ
「新潟市産婦人科医
会」に掲載されます)

当番医は、当センター
にもお問い合わせでき
ます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後3時～翌日午前9時 (受付時間：午後3時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

元日に、能登半島地震と津波が発生しました。新潟市でも、断水や水道水の濁りにより給水車に並ぶ人がみられました。日本全国どこでも災害による停電、断水は起きうると考え備える必要があります。生きるに必要な飲料水（長期保存水）、食料、簡易トイレを始めポータブルガスコンロ、ランタン、ラジオ、携帯充電器など自分にあった防災グッズの備えを確認して下さい。発災後3日間は援助がこないことも覚悟しましょう。

新潟市急患診療センター
ホームページ
<http://www.niigata-er.org>



新潟市医師会
救急疾患検索サイト
<http://www.niigata-er.org/search/>



小児救急ハンドブック
(新潟市)



URLは変更になることがあります。

発行：一般社団法人 新潟市医師会
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
TEL 025-246-1199